

調査団報告書

調査No.32

調査内容

昔、名古屋には国技館があったと聞いたことがあるけど、本当ですか？

調査手順

まずは、相撲関係の資料から調べてみよう。

『相撲大事典 第四版』によれば、1909(明治 42)年に国内初の屋内型相撲興行施設として、東京に両国国技館が開館し、成功を収めて以降、全国各地で私設の「国技館」建設がブームとなっていたようだ。横浜、京都、熊本などに続き、名古屋では1914(大正 3)年 2 月に「名古屋国技館」が開館していることが分かった。建物は正十六角形の鉄骨 4 階建て、8800 人収容可能というモダンかつ大規模なもので、当時の『名古屋新聞縮刷版』を確認すると同年 2 月 3 日付で「日本一の名古屋国技館」という見出しの記事が掲載されているのが確認できた。

では名古屋の国技館はその後どうなったのだろうか？ 郷土資料コーナーにある『東海の相撲史 第 1 巻』『愛知県(明治・大正・昭和の郷土史)』などで開館以降の経緯が確認できる。

資料によると、同年 2 月 6 日には当時の横綱や名古屋市長、愛知県知事など来賓 800 名が出席する華々しい開館式が催された。ただ、開館式の翌日から始まった東京大相撲の興業では、収容可能人数の半数程度の客入りしかなく、以降も不入りが続いたようだ。相撲以外には、映画上映、演説会、サーカスなどにも使用されたものの、経営はうまくいかず、10 年後の 1924(大正 13)年には取り壊されてしまった。国技館の所在地は、現在の中区丸の内、名城小学校のある場所であるということも分かった。

調査結果

国技館があったのは、東京・両国だけではなく！

「名古屋国技館」という施設が、1914(大正 3)年から 1924(大正 13)年にかけて、確かに名古屋にありました。

<参考文献>

『相撲大事典 第4版』 金指基／原著 日本相撲協会／監修 現代書館 2015 年

『愛知県(明治・大正・昭和の郷土史)』 日下英之／編著 昌平社 1982 年

『東海の相撲史 第1巻』 東海相撲史談会／編 東海相撲史談会 1986 年

『名北労基 第 847 号』社団法人名北労働基準協会 1988 年 3 月

「なごや特走隊 名古屋にも『国技館』大正期に建設ブーム」(『中日新聞』2008 年 8 月 11 日市民版朝刊) 中日新聞社

